



# 放送大学 アニュアルレビュー 2008

The Open University of Japan  
Annual Review 2008

# CONTENTS

学長挨拶	● 2
テレビ・ラジオによる授業—放送授業—	● 3
対面による授業—面接授業(スクーリング)—	● 6
研究への積極的な取り組み —特別研究と外部資金による研究から—	● 10
研究成果の発表・普及	● 12
海外との交流を通じての研究の推進	● 13
国際交流の取り組み	● 14
「開かれた大学」としての取り組み	● 19
よりわかりやすい講義を目指して	● 21
学習センターの動き、この1年	● 23
学習センター活動の充実	● 25
地域の学習の核となる学習センターへ	● 27
学位記授与式・入学者の集いの開催	● 29
同窓会活動の活性化	● 30
親しまれる放送大学へ	● 31
放送大学の新たな動き	● 33
データで見る放送大学の概要	● 34



## 【編集】

### ■放送大学アニュアルレビュータスクグループ

副学長 荻野 博

人間の探究 青山 昌文(主査) 産業と技術 原田 順子

生活と福祉 奈良 由美子 人間の探究 杉森 哲也

生活と福祉 井上 洋士 自然の理解 二河 成男

■総務部総務企画課評価分析係

## Annual Review の創刊にあたって



2009年3月

学 長

又、弘光

2004年度から国立大学が法人化され、大学の情報公開が社会的に一段と要請されるようになった。従来、大学は社会からみて特異な存在で、何をしようが自由勝手に行動していたといえよう。しかし考えて見ると、国立大学法人にはその予算の平均6割以上が国民の税金から充当されている。そこで国民の貴重な税金をつかって、大学でどんな教育・研究活動をやり成果を挙げているかを広く国民に説明する責任がある。また授業料を支払っている学生自身あるいは保護者に対しても、同じように大学の实態について説明せねばならない。

かかる視点から、近年国公私を問わず大半の大学で、その年間の教育・研究をはじめ実施した諸活動をもとに、Annual Reviewを作成し公表している。私は放送大学に就任して、まず気になったのはこのAnnual Reviewが、作成されていな

いことであった。とりわけ放送大学では一部の教員を除き、人の異動が激しい。職員の方は、通常2-3年で交代してしまう。過去の記録といっても必ずしも、手元に残ってない。昔のことを調べたければ、わずかに『放送大学10年史』と『放送大学20年史』が、利用できるぐらいである。これらもそれほど毎年の記録が、詳細に集積されているわけではない。

今回、放送大学でもAnnual Review2008が作成された。過去一年間の教育、研究、国際交流、社会貢献などすべての活動が、整理され掲載されている。毎年、このような努力を継続すれば、過去の断絶の心配はなくなるはずである。

このAnnual Reviewが作成されるまでには、荻野副学長はじめ多数の方々のなみなみならぬご尽力があった。改めて、この場をお借りしてお礼を申し上げたい。

# テレビ・ラジオによる授業 —放送授業—

放送授業は、放送大学の教育の最も中心に位置づけられるものである。2008年度の開設科目数は、第2学期（2008年10月～2009年3月）現在、学部288科目（テレビ150科目、ラジオ138科目）、大学院69科目（テレビ32科目、ラジオ37科目）の合計357科目（テレビ182科目、ラジオ175科目）である（表1参照）。

■表1 2008年度開設科目数一覧

学部	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学部	147	135	150	138
	282		288	
大学院	32	36	32	37
	68		69	
合計	179	171	182	175
	350		357	

■表2-1 2008年度新規開設科目一覧（学部）

専攻等	科目名称	メディア
人文系	哲学への誘い	R
	歴史と人間	TV
	心理臨床の基礎	R
	社会心理学の基礎と応用	R
	学校教育論	R
	国文学入門	R
	文学の愉しみ	R
	人文地理学	TV
社会系	問題発見と解決の技法	TV
	市民と社会を知るために一名著に触れようー	R
	市民社会と法	R
	社会と知的財産	TV
	経済学入門	R
	社会福祉入門	TV
	現代の会計	TV
	仕事・所得と資産選択	R
	現代世界の結婚と家族	TV
	初歩からの数学	TV
自然系	初歩からの物理学ー物理へようこそー	TV
	初歩からの化学	TV
	初歩からの生物学	TV
	解析入門	TV
	宇宙観の歴史と科学	TV
外国語科目	英語の基本	TV
	英語講読	R
生活と福祉	中国語基礎ーラブレターは書きますかー	R
	家族のストレスとサポート	R
	食品の安全性を考える	R
	感染症と生体防御	R
	市民生活における社会保険	R
	国際共生に向けた健康への挑戦	TV
	社会福祉における権利擁護	R

■表2-2 2008年度新規開設科目一覧（大学院）

プログラム・群名	科目名称	メディア
総合文化・環境システム科学群	物質環境科学Ⅱー宇宙・自然システムと人類ー	TV
	生命環境科学Ⅱー環境と生物進化ー	TV
政策経営	社会的自我論	R
	世界の芸術文化政策	TV
	大学のマネジメント	R
教育開発	教育経営論	R
臨床心理学	障害児・障害者心理学特論	R



新規開設科目の印刷教材

これらの放送授業は、原則的に4年間（毎年2学期間ずつで合計8学期間）開講される。したがって、第2学期現在の全開講科目357科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わることになる。2008年度の新規開設科目は、学部71科目（テレビ36科目、ラジオ35科目）、大学院7科目（テレビ3科目、ラジオ4科目）の合計78科目（テレビ39科目、ラジオ39科目）である（表2参照）。

専攻等	科目名称	メディア
発達と教育	心理学研究法	R
	認知科学の展開	TV
	記憶の心理学	TV
	教育の社会史	R
	大学と社会	TV
	地域教育の創造と展開	R
	心の健康と病理	R
	保育カウンセリング	R
	裁判の法と手続	TV
	比較政治ー中南米	R
社会と経済	現代の国際政治ー9月11日後の世界ー	TV
	現代行政分析	R
	労働経済	TV
	日本経済史	R
	ジェンダーの社会学	R
	社会階層と不平等	TV
	幸福の社会学	R
産業と技術	マーケティング論	R
	ビジネス・ファイナンス	R
	企業戦略と企業文化	TV
	日本の技術革新	TV
	コンピュータのしくみ	TV
	デザイン工学	TV
	都市と防災	TV
人間の探究	日本の思想	R
	文献学	TV
	アメリカの歴史と文化	TV
	日本美術史	TV
	現代日本社会における音楽	R
	文化人類学	TV
	博物館資料論	TV
	博物館経営・情報論	R
	社会の中の科学	R
	自然の理解	数学基礎論
現代物理		TV
熱と温度		TV
数理ファイナンス		R
技術革新を支える物質の科学		TV
バイオサイエンスで豊かな暮らし		TV

新規開講科目・主任講師による科目紹介 ①

学部科目 産業と技術・専門科目「コンピュータのしくみ('08)」 **テレビ科目**

主任講師 岡部 洋一 (放送大学副学長)

コンピュータといえばパソコン、あるいは科学技術用のスーパーコンピュータなどを思い浮かべるでしょうが、実はマイコンなどと名前を変えて、車、テレビ、はては洗濯機、炊飯器といった家電製品にいたるまで、生活のあらゆるところにまで入りこんでいます。幸い、デジタル回路であるコンピュータは、その動作原理が比較的簡単なため、説明がしや



テレビスタジオの収録風景

すいだろうと思って、こうした講義を作りました。

全講義が、コンピュータのことをほとんど知らないアナウンサーの遠藤さんとの対談形式で作られており、しかも「わからないときにはわからないといってください」とお願いしてあったため、学生さんの立場で対応していただき、比較的聞きやすい番組になったかなと思っています。

私は副学長として、教育のインターネット支援を担当していることもあり、この講義は、いろいろな努力をして、インターネット配信できるように作成しました。

このため、今は、大学のWebページからもリンクされ、誰でも見るができるようになっていきます。

また、通信制大学の欠点である双方向性の欠如を少しでもなくそうということで、この講義に関しては、Webによる学習システムを採用し、お知らせや議論のページ、直ちに正答かどうか分かる通信指導問題のシステムなどをテスト的に採用しています。今後の放送大学の指針になればと思っています。

新規開講科目・主任講師による科目紹介 ②

大学院科目 政策経営プログラム「社会的自我論('08)」 **ラジオ科目**

主任講師 船津 衛 (放送大学教授)

この「社会的自我論('08)」は学部向けの講義である「自我の社会学('05)」の上級編に当たりますが、それに比べて難しくなるというよりも、内容的に少し異なったものになります。つまり、この科目は具体的な現象の分析よりも、やや抽象度の高い理論的な研究を行うこととなります。そのために、自我に関するこれまでの学説や研究動向を探ることを行い、そこから現代人の自我の在り方を解明する分析枠組みを作り上げていくことが主なねらいになります。

「社会的自我論」は人間の自我が他の人間とのかかわりにおいて、社会的に形成され、また展開する「自我の社会性」を明らかにすることが中心的な課題となります。

「自分のことは自分が一番よく知っている」。普通、そう思われがちです。けれども、それは主観的な思いこみであったり、独りよがりな判断であったりすることが多いです。

自分を本当に知るには他の人に聞かなければなりません。他の人に聞いてみて初めて自分がどのようになっているのかを知ることができます。他の人の認識や評価、また感情を知ることを通じて、自分を知ることができます。これが「自我の社会性」です。

でも、このような考え方はこれまでのものとはかなり異なっております。むしろ、それとは全く逆のことを考えていることにもなります。それは一体どういうことなのでしょう。この「社会的自我論」はこのことについてじっくりと、また多様な角度から考えていきたいと思えます。皆さんの熱心な受講を心からお待ちいたします。



ラジオスタジオの収録風景

# インターネットによる放送授業の受講が可能に

## ■ 放送授業科目(一部科目)のインターネット配信

放送授業科目の一部については、放送大学在學生に学習情報を提供するキャンパス・ネットワーク・ホームページにおいて、インターネット配信を行っている。2007年度からラジオ科目のインターネット配信を開始しているが、2008年度からは新たにテレビ科目についてもインターネット配信実験を開始した。これによって学生は、インターネット接続環境さえあれば、時間や場所を限定されずに自由に放送授業を受講することができる。ただし、インターネット配信には著作権の問題があり、ただちに放送授業全科目を配信することはできないのが現状である。

放送授業科目のインターネット配信は、2007年度から著

作権処理が比較的容易なラジオ科目の配信を開始している。そして2年目にあたる2008年度には、ラジオ77科目(学部66科目、大学院11科目)に加え、新たにテレビ6科目(学部6科目、大学院0科目)の配信実験を開始した。テレビ科目は著作権処理が複雑なため、これらテレビ6科目は、いずれもインターネット配信を前提として制作され、2008年度から開講した科目である。

来年度以降に開講する放送授業科目は、インターネット配信を視野に入れた番組制作を行う予定である。これによってインターネット配信される放送授業科目は、将来的に増加することになる。

■表3 放送授業のインターネット配信の科目数

	学 部	大学院	合 計
テレビ科目	6	0	6
ラジオ科目	66	11	77
合 計	72	11	83

注 テレビ科目については、配信実験中の科目数である。



キャンパス・ネットワーク・ホームページの該当欄の画面  
(放送授業科目のインターネット配信)

# 対面による授業 — 面接授業(スクーリング) —

面接授業(スクーリング)は、放送授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと全国7カ所のサテライトスペースで開講している。2008年度の開設科目数は、延べ2,631科目(2,988クラス)である。これらの開設科目は、教養学部という特性に応じた幅広い内容のものであり、授業形態も通常の講義や実験だけでなく、フィールドワークや施設見学など多彩である。

面接授業科目は、全国の学習センターで企画・立案し、開講している(南関東ブロックの科目のみ、専任教員が企

画・立案に参加)。学習センターでは、全国共通の科目だけでなく、各地の歴史や文化、産業、自然など、地域に根ざした独自科目を開講している。さらに複数の学習センターによる共同企画科目、近隣大学や研究所などの協力を得て実施する科目などもある。

2008年度の開設科目のうち、①ネットを活用して離れた2カ所の学習センターで同時に実施された科目、②近隣の学習センターが連携し共同で企画し実施された科目を紹介する。

## 面接授業科目紹介 ①

### 「沖縄と東京圏の食文化と健康」

共通科目、人文系

担当講師 等々力英美 (琉球大学准教授)

担当講師 坂井 素思 (放送大学准教授)



面接授業の講義風景

#### 〈講義概要〉

沖縄は日本の未来を映す鏡だと言われる。東京・神奈川の住民を対象に行った沖縄野菜料理の介入研究の結果を交えながら、日本全体の平均的集団である東京圏住民と沖縄とを比較することにより、日本人の健康と食事のあり方について公衆衛生学や社会経済学の側面から考えてみる。

講義形式はネットを活用した神奈川および沖縄学習センター間で交互に行うことを想定している。沖縄食の試食も試みたい。

表4 連携公開面接授業「北陸・東海の戦国時代」科目一覧

学習センター	科目名	担当講師
富山	佐々成政をめぐる虚実	久保尚文(富山大学非常勤講師)
石川	加賀一向一揆の形成と展開	東四柳史明(金沢学院大学教授)
福井	戦国時代越前・若狭の人と文化	外岡慎一郎(敦賀短期大学教授)
岐阜	美濃・飛騨の戦国武将の生き方	丸山幸太郎(岐阜女子大学教授)
静岡	戦国武将今川義元	小和田哲男(静岡大学教育学部教授)
愛知	戦国時代の尾張・三河	福島金治(愛知学院大学教授)他4名
三重	異能の武将・藤堂高虎	藤田達生(三重大学教授)

## 面接授業科目紹介 ②

### 北陸・東海ブロック連携公開面接授業 「北陸・東海の戦国時代」

#### 〈企画案内〉

北陸・東海ブロックの7学習センターが、共通のテーマ「北陸・東海の戦国時代」について、各地域の特質を生かした内容で開講する面接授業です。複数の学習センターの科目を受講していただくことで、北陸・東海地区全体の戦国時代を学んでいただくことができると思いますので、是非、受講してみてください。ただし、一部重複する日程がありますので、ご注意願います。

# 科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の拡充

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を開始した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修することにより、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを認証するというものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定された。そこで放送大学エキスパートは、2008年度から、この「履修証明制度」に対応するものとし

て再スタートした。

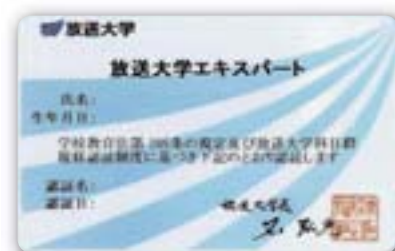
2008年度には「食と健康アドバイザープラン」など6プランが新たに創設され、全部で22プランとなった。2008年の認証状修得者数は、2,079人にものぼっている(2009年1月1日現在)。初年度である2006年度の223人、2007年度の1,092人から着実に増加しており、修学目標の一つとして定着しつつあることがわかる。学生のニーズに応える優れた制度であるといえよう。

■表5 2008年度から新たに加わった認証プラン

認証プラン名	認証プランの概要
食と健康アドバイザープラン	健康の維持・増進、疾病の予防、食の安全性など「食」に関する知識と理解力を持つ人を育てます。
ものづくりMOT(技術経営)プラン	チャレンジ意欲を高めつつ、技術イノベーションを促進するプロデューサーを養成します。
コミュニティ学習支援プラン	自らの学習体験を踏まえて地域社会の学習者を支援できる技量の習得を目指します。
アジア研究プラン	現代の世界におけるアジアの重要性、日本に対する社会的要請等を学び、アジアへの関心を深めます。
日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会の全体像を、過去から現在まで総合的に把握し、未来に向けて発想力・構築力・表現力の養成を目指します。
自然系博物館プラン	博物館学の一般的基礎に、自然科学の専門性も加え、自然系博物館の活動を支援する人を育てます。

■表6 2008年度の認証プランと認証状修得者数一覧  
(2009年1月1日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状修得者数
1. 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	359
2. 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	244
3. 社会生活企画プラン	社会企画士	146
4. 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	9
5. 心理学基礎プラン	心理学基礎	377
6. 社会探究プラン	現代社会の探究	58
7. 市民活動支援プラン	市民政策論	70
8. 実践経営学プラン	経営の理解	73
9. ものづくりMOT(技術経営)プラン	ものづくりとMOTを学ぶ	6
10. 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	174
11. コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	0
12. 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	60
13. アジア研究プラン	アジア研究	31
14. 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	21
15. 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	24
16. 生命科学プラン	生命人間科学	106
17. 環境科学プラン	環境科学の基礎	53
18. 社会数学プラン	数学と社会	19
19. エネルギー・環境研究プラン	エネルギー環境政策論	24
20. 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	91
21. 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	130
22. 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	4
合計	合計	2,079

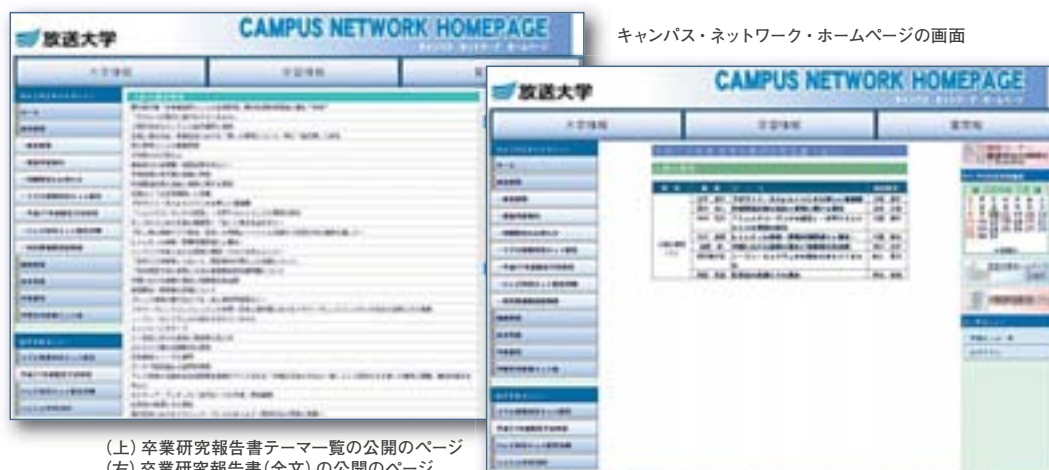




## 卒業研究報告書のインターネットでの公開

卒業研究報告書は、学部の卒業論文である。2007年度から、キャンパス・ネットワーク・ホームページにおいて、「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」の公開を開始している。ただし、後者については、執筆者の了

解が得られかつ著作権やプライバシーの問題がないと判断されたものについてのみの公開となっている。2008年度については、2007年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」31点を公開した。



キャンパス・ネットワーク・ホームページの画面

## Open Forum (放送大学大学院教育研究成果報告) の刊行

Open Forum (放送大学大学院教育研究成果報告) は、大学院修士課程修了者の修士論文を基にした学生論文集である。その趣旨と目的は、次のようなものである。

1. 大学から社会に向けた情報発信
2. 教員サイドの自己点検・自己評価
3. 修士課程の教育研究内容が具体的に見える広報資料
4. 修士課程の在学学生や今後の入学者に対する指標として、教育研究の現場へのフィードバック

Open Forumは、2004年3月に修士課程を修了した第1期生の修士論文を基にして、2005年3月に創刊された。以

後、毎年1冊ずつ刊行されており、2008年3月には第4号が刊行された。この第4号には、2007年3月の修士課程修了者453名の修士論文の中から、論文10点、研究ノート25点、論文レジュメ31点が掲載されている。



Open Forum第4号

## 寄附科目の開設

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。

2008年度に開設されている寄附科目は右表のとおり。

また、(社)日本内部監査協会の支援を受け、2009年度開設科目「組織運営と内部監査('09)」を制作した。

科目名	メディア	寄附団体名
著作権法概論('06)	R	(社)日本音楽著作権協会
消費者と証券投資('07)	TV	(社)日本証券業協会
【特別講義】うま味発見100年 ～その先端科学を探る～	TV	味の素(株)ライフサイエンス研究所

## 資格取得を目指して

### ■「看護師資格取得に資する科目」「学校図書館司書教諭講習」 「特別支援学校教諭Ⅱ種免許状(知的障害者領域)」

本学では、資格取得に資する科目として、「看護師資格取得に資する科目」及び「学校図書館司書教諭資格取得に資する科目」(学校図書館司書教諭講習)を開設している。

これらは、第1学期集中放送授業期間(夏季集中)に開講

され、キャリアアップを目指す学生に利用されている。

また、特別支援学校の教諭免許状取得に活用できる4科目を開設しており、現職教員の方を中心に利用されている。

## ICT活用教育合同フォーラムの開催

### ■ NIMEの移管に備えて

独立行政法人メディア教育開発センター(NIME)の事業が2009年4月に放送大学学園に移管されることを踏まえて、NIMEと放送大学学園との合同フォーラムが、2008年10月21日開催された。このフォーラムの趣旨は、ICT(Information and Communication Technology 情報コミュニケーション技術)活用教育の重要性やNIMEの事業

内容、これまでの取り組みや成果について、両機関の教職員の共通理解を促進するとともに、移管後の教育研究の在り方などについて自由闊達な意見交換を行うことによって、事業の円滑な移管と人的・組織的な融和を図り、新たな組織体制での放送大学の更なる発展に資するというものであった。基調提案と講演は、次のようなものである。

#### 〈基調提案〉

- 篠原正典 NIME研究開発部長  
NIME研究開発部における事業と研究活動の現状と課題

#### 〈講演〉

- 加藤浩 NIME教授  
ICT活用教育のための研究開発  
—研究開発の現状と放送大学における新たな展開—
- 苑復傑 NIME教授  
FDなどICT活用による教育の質向上  
—ICTを活用したFDの現状と放送大学におけるFDの推進—
- 岡部洋一 放送大学副学長  
放送大学における今後のICT活用教育  
—事業移管のメリットを最大限に発揮するために—



フォーラム当日の風景

# 研究への積極的な取り組み

## — 特別研究と外部資金による研究から —

放送大学では、専任教員らが数多くのテーマのもと研究を積極的に実践し、その成果を世に送り出している。また、特に研究の支援・推進のため放送大学では、特別研究費の制度を設けている。そして、放送大学の発展に寄与すると考えられる教育・研究プロジェクト、学術上あるいは大学運営上、評価しうるプロジェクトについては、グループ研究・プロジェクト支援として、また教員個人の研究を支援す

るために、個人特定研究として資金面での支援をしている。放送大学教育振興会など他からの助成基金も積極的に得て研究を進めている。

2008年度に特別研究として、また放送大学教育振興会・日本学術振興会の助成で実施した研究テーマとしては以下のような多彩なテーマがある。

■ 2008年度学長裁量経費Ⅰ(グループ研究・プロジェクト支援) 決定者一覧

専攻等	職名	氏名	プロジェクト名
生活と福祉	教授	藤原 康晴	「生活健康科学プログラム」の展開に関する調査研究
	教授	高崎 絹子	資格取得における放送大学科目の活用に対する要望と条件整備に関する研究—看護師資格取得プログラムを中心として—
	教授	大曾根 寛	社会福祉関係職の生涯学習に関する研究 —放送大学の意義と役割—
発達と教育	准教授	星 薫	日本心理学会認定心理士取得支援
社会と経済 生活と福祉	教授 准教授	高橋 和夫 奈良由美子	海外における業務・授業展開の支援
産業と技術	教授	河合 明宣	放送大学学習センターを核にした地域の生涯学習ネットワークにおける放送大学生及卒業・修了生グループの役割
	教授	鈴木 基之	放送大学環境研究会による環境問題の啓蒙と研究活動および「佐渡のトキ放鳥計画」の支援活動
人間の探究	教授	工藤 庸子	初修外国語IT教材制作のためのデータ収集と技術開発
	准教授	大石 和欣	遠隔・生涯教育機関としての放送大学の意義と国際的位置づけ—学習センターの役割と人権教育を主な調査対象にした研究・分析
	准教授	大橋 理枝	既存の素材を利用した外国語(英語)学習ウェブ教材の制作
自然の理解	教授	濱田 嘉昭	知識循環型生涯学習プロジェクト
産業と技術	教授	柏倉 康夫	閉講科目の出版
自然の理解	教授	熊原 啓作	放送大学学生エッセイコンテスト
図書情報課	課長	三浦 正克	広報及び利用価値の高い放送大学グッズの制作

■ 2008年度学長裁量経費Ⅱ(個人特定研究助成) 決定者一覧

専攻等	職名	氏名	プロジェクト名
生活と福祉	教授	多田 羅浩三	ベトナム・ハノイ市におけるエイズ感染乳幼児の現状と課題
	教授	中谷 延二	沖縄における伝承的食用植物の探索と健康増進成分の解明
	教授	本間 博文	中国、ホロンバイル草原の生態系を維持し続けるための居住環境整備指針策定に関する基本調査
	教授	松村 祥子	学童保育の日仏比較研究
産業と技術	教授	吉森 賢	アメリカ株至上主義の日本企業への影響とその対応
自然の理解	教授	濱田 嘉昭	光学活性分子の構造と機能についての研究
	准教授	吉岡 一男	偏光分光・測光観測によるRV Tau型変光星の星周囲ダスト層の研究
人間の探究	准教授	大石 和欣	20世紀イギリスにおけるコミュニティの変容—文学を通じた家の考古学

■ 放送大学教育振興会助成による研究：  
放送による大学教育用教材の研究開発

自然の理解	教授 川合 慧	抽象データの教材用可視化枠組みの研究
人間の探究	准教授 杉浦 克己	「古語拾遺」諸本の訓読の研究 ～訓点資料の電子化と公開・公開～

■ 放送大学教育振興会助成による研究：  
放送による大学教育用教材の海外に対する普及協力及び国際交流

産業と技術	教授 柏倉 康夫	海外遠隔教育機関との国際交流の推進
自然の理解	教授 海部 宣男	東アジアにおける天体・星文化の普及と教材化のための国際交流・協力

■ 放送大学教育振興会助成による研究：  
機関特別推進研究等

社会と経済	学長特別補佐 林 敏彦	新たな単位互換システムへの移行への取り組みと遠隔型生涯学習のための新しい「教育支援システム」の開発
-------	----------------	---

■ 日本学術振興会の科学研究費補助金による研究  
(氏名は代表者名)

研究代表者	職 名	研究課題名
本多 俊和	教授	先住民をめぐる異化と同化の力学に関する人類学的研究
奈良 由美子	准教授	生活リスクの認知・対処および生活評価の構造に関する日米比較による実証研究
宮本 みち子	教授	社会的経済セクターを通じた若者の社会的包摂に関する国際比較研究
草光 俊雄	教授	ロマン主義時代の旅行記とその歴史的背景～国家意識・国民意識の変容を中心にして
大曾根 寛	教授	フランスと日本の新しい障害者政策に関する比較研究
藤原 勝紀	特任教授	「専門的教養知」の働きとその教育・要請に関する文理総合型研究
荻野 博	副学長	遠隔教育のための化学実験用教材およびキットの開発
川合 慧	教授	情報の基礎概念および処理過程の教材向け可視化の研究
小川 正人	教授	政治・行財政改革下の教育政策決定構造と自治体教育行財政の変容に関する実証的研究
大石 和欣	准教授	ロマン主義時代の女性文学と福音主義的背景－歴史学的検証にもとづいた言説の研究
二河 成男	准教授	宿主昆虫ゲノムに存在する共生微生物由来の転移ゲノム断片の機能の解明
森 津太子	准教授	社会的判断における認知的な主観的経験の役割に関する研究
島内 裕子	准教授	(刊行物の名称) 徒然草文化圏の生成と展開
吉田 光男	教授	(刊行物の名称) 近世ソウル都市社会研究



特別研究費「『生活健康科学プログラム』の展開に関する調査研究」(代表：藤原康晴)にて、消費生活専門相談員 岡田ヒロミ氏(中央) へのヒアリング調査

<受賞>

仙田満教授(産業と技術専攻)は、建築デザインした『佛山市体育館』(中国) に対して、The Chicago Athenaeum: Museum of Architecture and Designより、国際建築賞2008を受賞した。

受賞理由は、スポーツの総合公園としての都市施設として世界初の大空間トラス方式を採用し、独創的な構造設計であり、明るさを確保しながら通風、温熱環境に配慮した地球環境建築的な提案を行ったことによる。



仙田満教授が建築デザインした佛山市体育館(中国)

# 研究成果の発表・普及

## 本学教員の書籍及び辞典・辞書の編集・執筆

放送大学の専任教員は、研究の成果を発表・普及するために、印刷教材以外にも、多数の研究書籍を編集・執筆しており、また辞典・辞書の編集にも積極的にかかわって

いる。これらは一般書店などでも購入することが可能である。放送大学の専任教員が編集・執筆をした書籍・辞典・辞書の主なものを以下に示す。

専攻	氏名	出版書名	出版社名
副学長	岡部 洋一	電磁気学の意味と考え方(単著)	講談社
	荻野 博	広辞苑第六版(化学関係語彙担当) 英和化学用語辞典(編著)	岩波書店 東京化学同人
生活と福祉	松村 祥子	世界の社会福祉年鑑 2008	旬報社
	大曾根 寛	ライフステージ社会福祉法—いまの福祉を批判的に考える(編著)	法律文化社
		社会保障法のプロブレマティク—対立軸と展望(編著)	法律文化社
	井上 洋士	薬害HIV感染被害者遺族の人生—当事者参加型リサーチから(編著)	東京大学出版会
	多田羅 浩三	地域保健シリーズ3 学びあう保健と福祉の新しい地平(編著)	日本公衆衛生協会
	中谷 延二	トウガラシ—辛味の科学 改訂増補版(共著)	幸書房
発達と教育	小川 正人	Educational Administration and Management in Japan (共著)	Cengage Learning
		教育六法(2008年度版)(編集委員)	三省堂
	滝口 俊子	家族心理臨床の実際—保育カウンセリングを中心に(シリーズこころとからだの処方箋)(編著) 河合隼雄のスクールカウンセリング講演集(編著)	ゆまに書房 創元社
社会と経済	西村 成雄	中華民国の制度変容と東アジア地域秩序(共著)	汲古書院
		現代中国の社会変容と国際関係(共著)	汲古書院
		歴史学のフロンティア—地域から問い直す国民国家史観(共著)	大阪大学出版会
産業と技術	吉森 賢	Corporate Governance Around the World (Routledge Studies in Corporate Governance)(共著)	Routledge
	原田 順子	戦略とは何か? :本質を捉える4つのアプローチ(共訳)	慶應義塾大学出版会
	仙田 満	子育て支援シリーズ 第4巻 安全・安心の環境づくり—地域で守る・自分で守る(共著)	ぎょうせい出版
建築大百科事典(「教育・文化・医療」執筆)		朝倉書店	
人間の探究	五味 文彦	躍動する中世(単著)	小学館
		宴の中世(編著)	高志書院
	工藤 庸子	砂漠論—ヨーロッパ文明の彼方へ(単著)	左右社
		ランジェ公爵夫人(単訳)	集英社
	佐藤 康邦	カント哲学のアクチュアリティ—哲学の原点を求めて—(編著)	ナカニシヤ出版
	杉森 哲也	近世京都の都市と社会(単著)	東京大学出版会
大石 和欣	農耕詩の諸変奏(共著)	英宝社	
自然の理解	海部 宣男	天文歳時記(単著)	角川学芸出版
	松本 忠夫	節足動物の多様性と系統(共著)	裳華房
大阪学習センター	柏木 隆雄	交差するまなざし—日本近代文学とフランス—(単著)	朝日出版社
		人とともに 本とともに(単著)	朝日出版社
福岡学習センター	押川 元重	数学からはじめる電磁気学(共著)	培風館

# 放送大学研究年報の発行

放送大学では、研究の成果をとりまとめた研究年報を毎年発行しており、2007年度版が2008年3月に発行されている。



2007年度(2008年3月発行)の放送大学研究年報

## ■ 2007年度(2008年3月発行)の放送大学研究年報掲載論文

論文タイトル	著者
食育に関する一考察 —フランスにおける「食育」に関する取り組みの一場面—	中谷 延二
いじめのタイプとその対応	住田 正樹
点と点のあいだ —中間領域への接近—	佐藤 仁美
コーヒー消費と日本人の嗜好趣味	坂井 素思
企業統治と経営成果の関連性 —日本・アメリカ・ドイツの比較による視点—	吉森 賢
ブータン王国における地方分権化と住民参加型農村開発の課題	河合 明宣
公的セクターにおける病院看護師のマネジメント —日英の外国人看護師に関する事例と考察—	原田 順子 岡野内 俊子
馬千里日記考(2)	浜口 允子
ディドロ『絵画論断章』訳注 —その7—	青山 昌文
幕末横浜居留地での英仏軍楽隊野外演奏曲目(承前)	笠原 潔
博物館における先住民族表象 —外国の博物館展示事例から—	本多 俊和 謝 黎
沈黙したアブラハムの神—ハロルド・ピントーの「給仕エレベーター」	大石 和欣
マルチメディアを活用した統計教育の情報化に関する研究 —「身近な統計(Web版)」の研究開発を通して—	渡辺 美智子 末永 勝征 熊原 啓作
おうし座RV型星のHBS(偏光分光測光装置)による偏光観測とその固有偏光	吉岡 一男
東京藝術大学大学美術館蔵「徒然草画巻」(全五十三図)の紹介と研究	島内 裕子
「古語拾遺」の一写本をめぐって	杉浦 克己

## 海外との交流を通じたの研究の推進



フィリピン大学准教授Jim J.G. Minglana氏と放送大学荻野博副学長

放送大学では、研究を推進するにあたって、海外との交流も積極的に行っている。

その一環として、外国の研究者を毎年受け入れている。2008年10月にはイランの研究者夫妻、フランスの研究者1名、イギリスの研究者1名を迎えた。また11月には、イスラエルの研究者2名、フィリピンでマイクロスケールケミストリーの普及に活躍している研究者であるフィリピン大学化学科准教授Jim J.G. Minglana氏を迎え、研究の交流を行った。

また、海外の大学との共同研究も実施している。たとえば、社会と経済専攻の林敏彦教授は、カリフォルニア大学Berkeley校とともに2006年からInformation Technology Research in the Interest of Society というテーマでの共同研究を行っている。

# 国際交流の取り組み

放送大学にとって2008年は、国際交流にも特に注力した一年であったといえる。その取り組みには、国際的な視点による大学改革が重要だとの思いが込められている。

「放送大学アクションプラン2008」では、「世界に羽ばたく遠隔教育の殿堂を目指して」をサブタイトルとし、具体的なアクションプランのひとつに「国際社会における連携」を掲げている。これを受けて2008年度は、世界の公開大学と

国際交流協定を締結し、他大学とともに教育研究活動を行うための取り組みを展開した。また、イギリスをはじめ欧米諸国、東アジアの国々・地域の先進的機関との相互の訪問を行い、国際会議にも参加した。さらに、海外在住の日本人ならびに日本文化に関心を持つ海外の外国人に対して教育サービスを提供することについても、布石を打つ取り組みを実施した。

## 世界の公開大学との交流

### ■ イギリス公開大学と国際交流協定を締結

2008年8月26日、ミルトン・キーンズにあるイギリス公開大学の本部で、イギリス公開大学との学术交流協定の調印式が行われた。放送大学からは石学長が、イギリス公開大学からはW.Swann副学長が出席した。

イギリス公開大学は1969年に政府によって創立され、欧州で最も古く、また世界で最も著名な遠隔教育大学である。世界30カ国にある大学などの関連機関とパートナーの契約を結び、教材、カリキュラム、教授方法などライセンスを与え使用させ学位や認証状を出している。イギリス国内の学生数はおよそ16万人、そして海外の学生数はおよそ2万人と、国内外でスケールの大きな遠隔教育活動を行っている。



W.Swann副学長(左)と石学長(右)



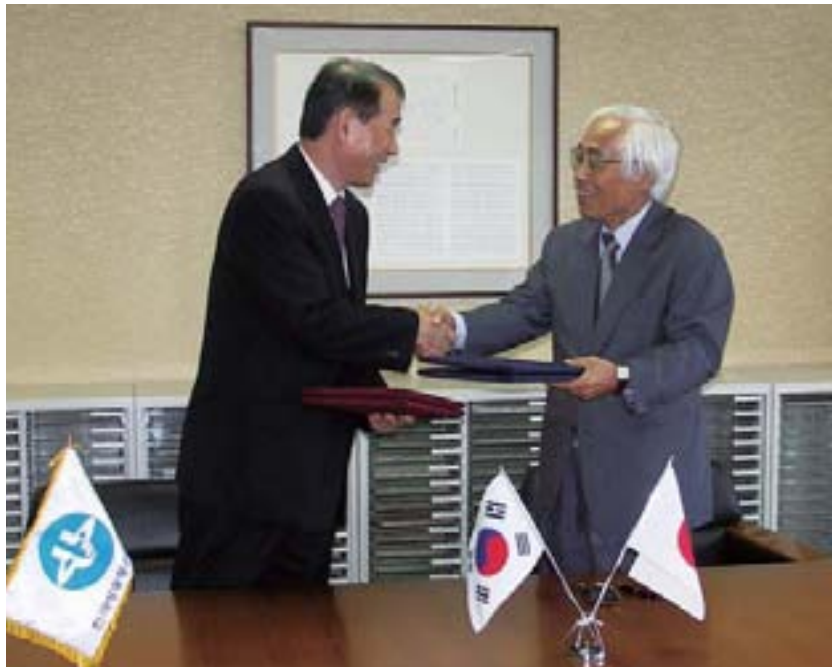
イギリス公開大学地域学習センター(上)と協定書(右)



この協定の締結によって、双方の大学間における教材制作の協働・協力、スタッフの交換訪問、セミナーやカンファレンスの開催などが今後一層図られることとなる。放送大学主催による2009年11月のカンファレンス「(仮称)世界公開大学学長シンポジウム inさいたま」にイギリス公開大学のシニア・メンバー(学長あるいは副学長)が出席することなどが当面の具体的な交流活動として合意された。

## 世界の公開大学との交流

### ■ 韓国放送通信大学校と国際交流協定を締結



張矢遠総長(左)と石学長(右)

2008年9月22日、幕張の放送大学本部において、韓国放送通信大学校との交流協定の調印式が行われた。放送大学からは石学長が、韓国放送通信大学校からは総長の張矢遠氏が出席し、公開遠隔教育の分野において相互に利益のある様々な領域で協力し合うことが合意された。



サービスの提供が進んでいることがある。施設の充実したデジタルメディアセンターを持ち、制作の支援体制も高い。授業の一部は放送されているものの、ほぼすべての授業が

韓国放送通信大学校は1972年に設立された。韓国的高等教育に初めて遠隔教育を導入した大学である。学部21学科・大学院9学科に在学学生18万人が学んでおり、卒業生は43万人を超える。韓国放送通信大学校の特徴のひとつに、インターネットを用いた教育



韓国放送通信大学本部

インターネット配信され、Webラーニングもできるようになっている。また、同校は海外の遠隔教育機関との国際交流に力を入れており、意欲的に連携活動を行っている。

この協定締結において、教育コンテンツの共同開発と利用や、教育情報・学術資料・教育と研究に関する出版物の交換等について協力し合うことが確認された。放送大学と韓国放送通信大学校が国際協力協定を締結することで、これからの国際的遠隔教育において多大な成果が期待される。



## 米国メリーランド大学UMUCとの交流

米国の代表的な遠隔教育大学のひとつにUniversity of Maryland University College (UMUC) がある。UMUCは州立大学であるメリーランド大学に所属しており、本部もメリーランド州Adelphiのメリーランド大学キャンパス内にあ

る。2008年2月に、石学長がここを訪ねた。訪問の目的は、米国の遠隔教育の現状やインターネットを活用したオンライン教育の方法・課題を知ることなどである。



University of Maryland University College

UMUC学長のAldbridge氏をはじめ、副学長、学部長、教員らと石学長との間で意見交換が行われた。米国の遠隔教育のおかれた環境は厳しい競争にさらされていること、そのなかでUMUCが学生サービスを中心に大学運営を実施する努力を続けていることなどの情報を得た。さらに、ここに学ぶ学生とも懇談の時間が持たれ、学生の視点からの実際の声を聞く機会となった。



2人の学生と



Aldbridge学長 (中央の女性) とともに

また、2008年4月18日には、Aldbridge学長を含む3名のUMUC関係者が幕張の放送大学本部を訪問し、放送大学からは石学長・岡部副学長らが出迎えた。放送大学の施設見学に加え、UMUCと放送大学との連携についての打ち合わせを含む有意義な意見交換が行われ、今後も相互に交流を深めていくこととなった。

# 2008年の来訪の一覧

2008年の外国からの訪問者は次のとおりである。

来訪期日	国・地域	来訪機関	来訪者
4月11日	中国	中国国際交流センター	北京ラジオ・テレビ大学 徐永利学長 ほか3名
4月18日	米国	米国メリーランド大学	Susan C. Aldridge学長 ほか2名
6月26日	韓国	韓国遠隔大学協議会	同協議会事務局長 Kim, Young Chul氏 ほか13名
7月18日	モンゴル	モンゴル公共放送訪日団	モンゴル・ラジオテレビ総局 (MTB) Samgarid Enkhjargal氏 ほか3名
9月22日	韓国	韓国放送通信大学校	張矢遠総長 ほか2名
11月6日 ～16日	台湾	高雄市立空中大学	呉雪虹 外国語学科主任
12月22日	中国	中国中央広播電子大学	葛道凱学長 ほか6名



2008年12月に来訪された  
中国中央広播電子大学の皆様



## 国際会議への参加

### ■ アジア公開大学連合 (AAOU) 第22回年次大会への参加

アジア公開大学連合 (AAOU : Asian Association of Open Universities) はアジア地域73の会員機関 (正会員42機関・準会員30機関、2008年5月現在) からなっている。その設立の目的は、遠隔教育の一層の発展を図り、各国の遠隔教育機関相互の交流を推進することにある。1987年の設立以来、年次会議が毎年開催され、放送大学からも毎回出席者を送り出してきた。

2008年は第22回年次会議 (10月14日-16日) が中国天津で行われ、放送大学からは、石学長、大石准教授、秋光准教授、井上准教授が参加した。同会議のテーマは「New Development, New Trend and New Missions of Open and Distance Education in Asia and the World」である。

石学長による基調講演をはじめ、生涯教育及び遠隔教育の現状や課題についての活発な議論が行われた。また、大石准教授、秋光准教授、井上准教授による研究報告もなされた。



基調講演会場



参加者と石学長(右)

### ■ 国際遠隔教育評議会機関長会議 (ICDE-SCOP) への参加



会議の参加者全員

2008年10月18日-19日、中国の上海電視大学でICDE-SCOP(国際遠隔教育評議会機関長会議) が開催された。放送大学からは、石学長と秋光准教授が出席した。

国際遠隔教育評議会 (ICDE) は、ユネスコの非政府団体 (NGO) の一つであり、遠隔教育に関する情報の交換やその振興を図るために設立された学会である。国際遠隔教育評議会機関長会議 (ICDE-SCOP) はICDEに所属する機関長の会議であり、本学からも毎年、学長以下数名の教員が出席している。

2008年のテーマは「The Future of Open and Distance Education and the Building of the Learning City: New Challenges, New Opportunities, and New Strategies」である。40カ国以上の

遠隔教育機関から80名近い参加者が集い、高等教育のグローバル化と国際化、教育の保証などについて議論が行われた。

# 「開かれた大学」としての取り組み

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、その中から、教員が行った活動の一部を紹介する。

## 大学コンソーシアムを通じて地域に根ざす

本学は通信制の大学である。その利便性を他大学学生と共有し、本学学生には新たな勉学の間を提供するため、一般の大学と「大学コンソーシアム」も形成している。これにより、大学間の単位互換を推進し、本学の学生に幅広い勉学の機会を与えるとともに、他大学の学生に対しても300科目を超える本学の講義単位を取得する機会を提供している。地域に根ざした知の貢献活動である。

コンソーシアム名	コンソーシアム概要	参加大学等数	
		参加大学等数	関連学習SC
学都仙台コンソーシアム	大学・短大・高専ほか商工会・宮城県・仙台市	22校	宮城SC
大学コンソーシアムやまがた	大学・短大・高専	11校	山形SC
大学コンソーシアムとちぎ	大学・短大・高専	18校	栃木SC
大学コンソーシアム石川	大学・短大・高専	20校	金沢SC
大学コンソーシアム佐賀	大学・短大	5校	佐賀SC
高等教育コンソーシアム宮崎	大学・短大・高専	12校	宮崎SC
群馬県内大学包括協定	大学	5校	
千葉県私立大学・短期大学包括協定	大学・短大	35校	
香川県内5大学と放送大学	大学	5校	
高知4大学との包括協定	大学	4校	

黄色：コンソーシアムとの単位互換の包括協定を締結済みの地域  
薄緑色：コンソーシアムの形態とは異なり、単位互換の包括協定を締結している地域



「大学コンソーシアム佐賀」単位互換協定調印式(2008年5月31日)



## 日本学術会議

日本学術会議は1949年に内閣総理大臣の所管の下に設立され、科学に関する重要事項を審議し、研究の連絡を図り、その能率を向上させるための活動を実施するものである。我が国の人文、社会科学、自然科学の全分野の研究者を代表する機関といえ、およそ210人の会員と2,000人の連携会員を有する。本学の教員も会員、連携会員等にも選ばれ、その活動に貢献している。その一部を紹介する。

職位	職名	氏名	
部長(第三部)	教授	海部 宣男	
	教授	仙田 満	
会員	教授	内堀 基光	
	副学長	荻野 博	
	文京学習センター所長(特任教授)	桂井 誠	
	岡山学習センター所長(特任教授)	斎藤 清機	
	北海道学習センター所長(特任教授)	富田 房男	
	連携会員	教授	船津 衛
		教授	星 元紀
		教授	本多 俊和
		教授	松本 忠夫
		教授	宮本 みち子
		教授	吉田 光男
教授			

## 学会、国・地方自治体等

本学の教授陣は、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍しています。学識者として各方面で活発に貢献している。学会のみならず、国・地方自治体等への貢献の一部を紹介する。

氏名	職名	役職
白井 永男	准教授	医療体育研究会 事務局長
大曾根 寛	教授	日本職業リハビリテーション学会 理事・副会長
荻野 博	副学長	The International Union of Pure and Applied Chemistry (IUPAC), Division VIII, National Representative
仙田 満	教授	日本建築家協会 会長
高崎 絹子	教授	日本高齢者虐待学会 理事長
多田 羅 浩三	教授	大阪市高齢者施策推進委員会 委員長
塚越 規弘	愛知学習センター所長 (特任教授)	糸状菌遺伝子研究会 会長
西村 成雄	教授	日本現代中国学会 理事長
松村 祥子	教授	日仏社会学会 副会長
宮本 みち子	教授	ユースアドバイザーの研修・養成プログラムの開発検討会(内閣府) 座長
吉田 光男	教授	朝鮮史研究会 会長

## 学会、公的団体等主催の一般向け講演

学会、公的団体等が主催する一般向けの講演は、研究者の専門的知識を社会に還元するものといえる。右の表は、本学教員による講演会活動の一部である。

氏名	職名	テーマ	主催・形態等
白井 永男	准教授	高齢者・障害者のためのバリアフリースポーツ	第5回老人保健施設・通所リハ等職員セミナー
大曾根 寛	教授	労働関係法律と職業リハビリテーション	障害者職業総合センター
小川 正人	教授	日本の教育行財政制度の特徴と改革動向	国際交流基金主催： 米国教員研修事業
荻野 博	副学長	理科教員のためのマイクロスケールケミストリー	科学技術振興機構(JST) 理数系教員指導力 向上研修事業
海部 宣男	教授	宇宙と生命、そして人間を考える：生命を生んだ宇宙のひろがり	日本学術会議公開講演会
仙田 満	教授	あそびと空間	日本保育園保育協議会 基調講演
高崎 絹子	教授	シンポジウム：高齢者虐待の理解と家族支援—法律の成立・施行の意義と看護職の役割—	日本赤十字看護学会 学術集会

## その他の社会貢献

その他の社会貢献について一部を紹介する。

氏名	職名	役職
海部 宣男	教授	・世界天文年2009日本委員会委員長、および国際天文学連合WG委員として、世界天文年2009の準備を組織・推進・天文学振興財団理事長
星 元紀	教授	・山田科学振興財団 選考委員長
松村 祥子	教授	・国民生活センター 研究会座長

### 「世界天文年2009」とは

1609年のイタリアで、科学者ガリレオ・ガリレイが望遠鏡の使用を開始した。天文学において記念すべき、「その日」からついに400年が経とうとしている。これを記念し、国際天文学連合、国際連合、ユネスコは、2009年を「世界天文年」と定めた。137カ国(2009年2月時点)が参加し、各種のイベントが開催される予定である。日本は主要参加国であり、「世界天文年2009日本委員会」のもと、主要研究組織、研究所、その他団体等と連携し、様々な企画準備が進行中である。本学の海部宣男教授はその委員長を務めている。



海部 宣男教授

# よりわかりやすい講義を目指して

## 学生及び教員による授業評価

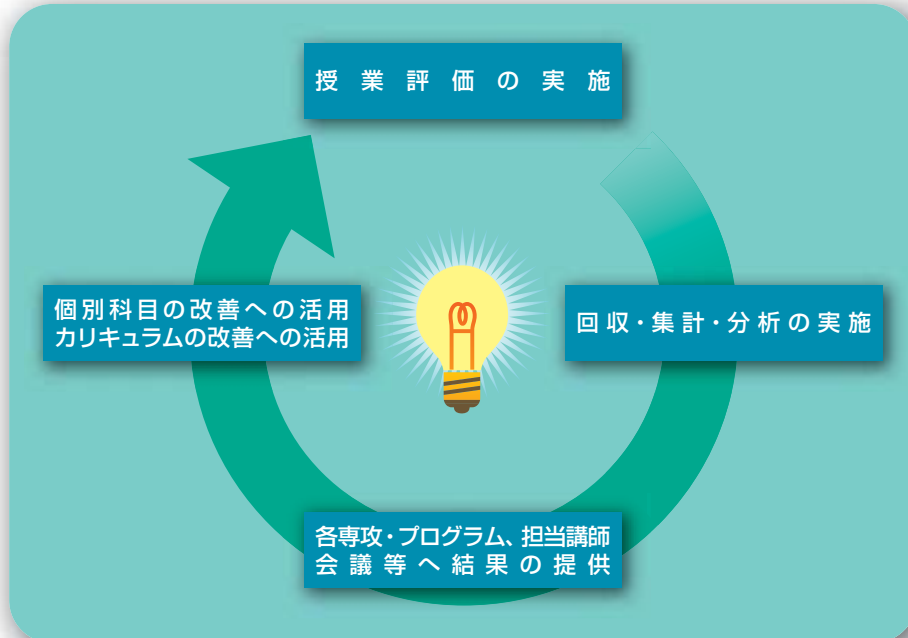
2006年度より学生及び教員による放送授業の評価を実施し、教育内容および方法の改善のために利用している。授業内容、放送教材、印刷教材、通信指導問題、単位認定試験問題等について、受講学生の択一式と自由記述による授業評価を行い、学生の授業の理解度を把握している。今年度は2007年度に新たに開設された全放送授業科目、学部65科目大学院15科目がその対象科目となっている。

また、学生だけでなく教員による授業評価も実施している。各学習センターの所長を務める、教育の経験が豊富で放送大学の特性を十分理解した教授陣により、学生の立場に立った評価を行っている。さらに、専門的な立場から

の評価、自己点検を目的として、関連する分野の専任教員による授業評価も実施している。今年度は、2007年度開設科目の中から27科目についてこれら教員による授業評価を実施し、学生による授業評価と同様の項目について、評価レポートを作成している。

放送大学ではこれら授業評価の結果を、各授業の担当教員だけでなく、他の教員、放送教材制作や印刷教材制作に係わるスタッフにも提供することによって、大学全体でこれらの情報を共有することにより、放送授業の更なる充実を目指している。

■ 図1 授業評価の組織的な活用



## Faculty Development(FD)



FD講演会

Faculty Developmentの一環として2月27日に2名の講師による講演会を開催した。はじめに、大塚雄作教授(京都大学高等教育研究開発推進センター)より、「FD法制化の意義と課題—遠隔高等教育の新たな挑戦に向けて—」について講演をして戴いた。何がFDか、そして自らの講義に対する授業評価をどう生かしていくかという、実践的でかつ興味深い内容であった。つぎに、近藤智嗣准教授(メディア教育開発センター)には、「次世代の放送大学コンテンツを考える～放送番組+印刷教材+Web教材+a～」というタイトルで、最新のデジタル技術を教材に生かす方法について紹介して戴いた。講演後には、演者、本学教員の間で、活発な議論が展開された。

また、講演会終了後に行った参加教員へのアンケート調査からも、今回のFDが有意義であったことが明らかになった。今後もこのようなFDを継続的に行い、教育の質の向上を目指す。

## 放送授業科目の主任講師会議

7月18日に放送大学本部にて、2010年開設科目の主任講師会議を行った。放送大学の講義は、放送授業と面接授業からなる。どちらも放送大学の専任教員だけではなく、大学などの様々な機関に所属する方に、講義を担当して戴いている。それら客員教員には、放送大学、あるいは放送大学の学生の特性について、事前に文章や面談にて周知している。なかでも放送授業の主任講師は、放送での講義、教科書の執筆、通信指導、単位認定試験の問題作成等、通学制の大学の講義では経験しない事柄も多数、行う必要がある。さらに、それらを授業を分担する講師に周知し、講義全体を統括する役割を担っている。そのため、放送大学では、年に1回、放送授業の制作の前に、専任、客員を問わず、主任講師となる教員を一堂に集め、放送授業に関するあらゆる

事柄について解説している。その際には、教材作成を担当するディレクターや編集者との意見交換も行っている。



主任講師会議(全体会議) 2008.7.18開催

## 新任教員の着任

2008年には、新たに石丸昌彦教授(生活と福祉専攻)、小川正人教授(発達と教育専攻)、西村成雄教授(社会と経済専攻)、吉田光男教授(人間の探究専攻)、井上洋士准教

授(生活と福祉専攻)、森津太子准教授(発達と教育専攻)の合計6名が、専任教員として本学に就任した。

# 学習センターの動き、この1年

## 4つの学習センターで開設10周年の記念式典を開催

1998年に放送大学は日本全域での大学教育を開始し、今年で10年になる。和歌山、徳島、佐賀、鹿児島県の4つの学習センターでは開設10周年を記念して、講演会やシンポジウムを行った。これらの学習センターでの講演会には、石弘光学長自らが、財政改革、年金改革、税制改革、地球環境問題という、現在の日本の国として抱える様々な問題について講演を行った。また、和歌山学習センターでは、仁坂

吉伸知事にも出席戴き、祝辞を頂戴した。鹿児島学習センターではシンポジウムを開催し、柴田亜衣選手（鹿屋体育大学、アテネオリンピック女子水泳800メートル自由形金メダリスト）、高鍋絵美選手（鹿屋体育大学卒、北京オリンピック女子水泳800メートルリレー出場）らに出席戴き、オリンピック等について熱く語ってもらった。



和歌山学習センター



徳島学習センター



佐賀学習センター



鹿児島学習センター



## 3つの学習センター・サテライトスペースが移転

更なる学生の学習環境の向上のために、石川学習センターが野々市町の金沢工業大学の9号館に、広島学習センター福山サテライトスペースが福山市に新たに開館した生涯学習の拠点施設「まなびの館ローズコム」に、静岡学習センターが静岡県立三島長陵高等学校に移転した。これらの学習センターの移転記念事業では、石弘光学長も参加し、講演や挨拶を行った。



福山サテライトスペース



石川学習センター



静岡学習センター

## 学習センター所長の就任

本年は4月に12の、6月に1つの学習センターにおいて、新たに学習センター所長が就任し、放送大学の学習センターの更なる充実のために、精力的に活動している。

山形学習センター	柴田 洋雄 所長
栃木学習センター	鯨井 佑士 所長
長野学習センター	大島 征二 所長
京都学習センター	藤原 勝紀 所長
鳥取学習センター	西田 良平 所長
鹿児島学習センター	竹田 靖史 所長
茨城学習センター	朝野 洋一 所長

千葉学習センター	宮崎 清 所長
静岡学習センター	本多 隆成 所長
大阪学習センター	柏木 隆雄 所長
徳島学習センター	中條 信義 所長
高知学習センター	石川 充宏 所長
長崎学習センター	崎山 毅 所長

# 学習センター活動の充実

学習センターは、面接授業の開講、単位認定試験の実施、放送授業の視聴、諸事務手続き以外にも、大学を身近に感じてもらい、新たな学習へのやる気を引き出すために、様々な事柄に取り組んでいる。

2008年に行った取り組みのいくつかを紹介する。

## ゼミや勉強会の開催

所長、客員教員あるいは学生有志が中心となり、様々なゼミや勉強会、あるいは公開講座を開催している。英会話などの誰でも親しめるサークル的なものから、教員主導の専門的なゼミまで、多様な形態で行われている。放送大学は通信制であるが、スクーリングや様々な機会を通して、学生が直接、教員や他の学生と共に学ぶ場の創造に努めている。



勉強会(滋賀学習センター)

### ■ 2008年第1学期あるいは第2学期の開催例

秋田学習センター	生理学ゼミ、その他2テーマ
福島学習センター	「政府」と経済のしくみ、その他4
福井学習センター	中世の人びとの手紙を読む～平安・鎌倉時代編 その他4
滋賀学習センター	埴輪から見た古墳時代の首長と古墳、その他5
岡山学習センター	化学千夜一夜 その他10
徳島学習センター	心理学体験ゼミ その他5
山口学習センター	初級英語、その他6

## 学習・履修相談の開催



学習相談(群馬学習センター)

放送大学では、授業内容については、インターネットや質問票を利用して、その講義を担当する教員に質問することができる。しかし、学業を進める上では、いろいろと疑問や悩みが生じ、他人に意見を求めたいことが起こる。各学習センターでは、定期的に学生相談を受け付けており、所長や客員教員、あるいは経験豊富な学生が、その相談に応じている。また、多くの学習センターでは、入学式典の直後に相談会を開催している。

## サークル活動の奨励

学生同士の親睦を深め、学業のみにとどまらない、豊かなキャンパスライフを築いてもらうために、放送大学はサークル活動を支援している。サークル活動の中で、年齢やこれまでの人生経験が全く異なる人達と、共通の目的を持って活動することは、すばらしい人生経験となるであろう。各サークルは、学習センターに所属しており、その活動のために教室などを利用することができる。サークル紹介の冊子なども学習センターでは積極的に作成している。



サークル活動の様子(滋賀学習センター、新潟学習センター)



## 研修旅行

各学習センターでは、学生の親睦と、地域の再発見を目的に、研修旅行を年1回程度開催している。

秋田学習センター	田んぼアート鑑賞、垂柳遺跡、中町こみせ通り見学
東京文京学習センター	筑波宇宙センター・アサヒビール工場見学
千葉学習センター	伝統工芸房州うちわ制作体験
新潟学習センター	真田太平記館、上田城見学
滋賀学習センター	丸岡城、永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡見学
山口学習センター	吉野ヶ里遺跡見学
大分学習センター	九重夢大吊橋、角牟礼城跡、豊後森機関庫跡の見学



研修旅行(大分学習センター)

# 地域の学習の核となる学習センターへ

## 公開講演会の開催

放送大学は、生涯学習機関として、広く一般の方々にも大学教育の機会を提供することを設立目的の一つに掲げている。本学学生にとどまらず、より多くの方に学習機会を提

供することを目指し、放送大学学習センター主催、あるいは地域との共催により、様々な公開講演会を実施している。本年は全国で合計300以上の講演会を開催した。

宮城学習センター	「スマート・エイジング(Smart Aging)」	川島隆太(東北大教授)
茨城学習センター	方丈記と徒然草ー生き方の哲学・生き方の美学ー	島内裕子(放送大准教授)
群馬学習センター	源氏物語の千年ーその開花と土壌ー	藤本宗利(群馬大教授)
滋賀学習センター	日本中世史における真実ー木曾義仲の時代を中心にー	五味文彦(放送大教授)
香川学習センター	後期高齢者医療広域連合会について	村上博(香川学習センター客員教授)
大分学習センター	人に出会い、人に育てられるー私の弁護士としての40年ー	徳田靖之(弁護士)
熊本学習センター	国宝 青井阿蘇神社の魅力を探る	北野隆(熊本学習センター客員教授) 伊東龍一(熊本大教授)
鹿児島学習センター	鹿児島の渡り鳥(出水が育むツルの生態と保護)	鮫島正道(第一幼児教育短期大学客員教授) 安田宣紘(鹿児島大教授) 高瀬公三(鹿児島大教授)



公開講演会(群馬、滋賀、大分、熊本学習センター)

## 福島で開かれた第20回全国生涯学習フェスティバルに参加

第20回全国生涯学習フェスティバル「まなびピアふくしま2008」が、10月11日(土)から10月15日(水)まで、郡山市のビッグパレットふくしまを主会場に開催された。福島学習センターは「生涯学習見本市」に出展した。「キャリアアップの学び」をテーマとするブースにおいて、大学の紹介とともに、放送大学附属図書館所蔵の「ちりめん本」と幕末、明治期の古写真の展示、上映会などを行った。家族連れでも

楽しめるように、ジャンケン大会、回転ダーツ、スピンアートなどのイベントも開催した。

また、フェスティバルの参加事業として、10月13日(月)に郡山市中央図書館で公開講演とシンポジウムを「生涯学習の中でインターネットをどう活用していくか」というテーマで開催した。これらには岡部洋一副学長と岩永雅也教授も参加した。



第20回全国生涯学習フェスティバル「まなびピアふくしま2008」の会場



郡山市中央図書館で開催されたシンポジウム

## インターンシップや就業体験の受け入れ

地域貢献の一環として、学習センターでは様々な学生を対象に交流を行っている。滋賀、沖縄学習センターでは、地域の大学生あるいは高校生のインターンシップを受け入れた。また、幕張本部でも地元の中学生の就業体験に協力し

ている。静岡学習センターでは、地域の高等学校等との連携協議もっており、このように学習センターは地域での学習の拠点となるための活動も行っている。

# 学位記授与式・入学者の集いの開催

## 学位記授与式

3月16日にNHKホールにて2007年度学位記授与式が挙  
行された。当日は、学部卒業生と大学院修了生とその同伴  
者併せて、2,033名が出席した。学歌演奏、石弘光学長式辞、  
渡海紀三朗文部科学大臣ならびに増田寛也総務大臣（代

理：河内正孝官房審議官）からの祝辞に続き、学部卒業生  
代表の大橋敏明さん及び大学院修了生代表長澤恵美さん  
による答辞で閉式となった。2007年度3月の学部卒業者は  
3,079名、大学院修了者は379名であった。（On Airより）



平成19年度学位記授与式

## 入学者の集い

4月には各学習センターにおいて、「入学者の集い」が開  
催された。全国で合計29,999人（ただし、全科生以外の学  
生も含む）の学生が新たに、あるいは再び、放送大学の学  
生として学習を開始した。



入学者の集い(滋賀学習センター)

## 秋期にも入学、卒業のチャンス

放送大学では、秋期にも入学（ただし、修士全科を除く）、  
卒業・修了が可能である。今年も9月から10月にかけて全国  
各地の学習センターやサテライトスペースにおいて、学位  
記授与式、「入学者の集い」が開催された。今年は秋期に、  
1,938名の方が卒業・修了され、21,318名（全科生以外の学  
生も含む）の方が入学した。



秋期学位記授与式(島根学習センター)

# 同窓会活動の活性化

## 同窓会設立、参加の推進

現在、全国41カ所の学習センターあるいはサテライトセンターで同窓会が組織されている。学部全科の卒業生、修士全科の修了生なら参加することができ、会員数は9,199名(9月1日現在)に及んでいる。今年は、新たに青森、秋田、大

分で同窓会が組織された。また、これら全国に及ぶ同窓会組織をまとめるために、放送大学同窓会連合会が組織されている。専任教員からも同窓会担当教員を任命し(今年は青山昌文教授)、密な情報交換を行っている。



放送大学同窓会連合会のHP

## 同窓会の活動

放送大学同窓会連合会には、例年、学位記授与式後に謝恩会を企画・運営してもらっている。今年は、東京都港区のホテルニューオータニにて開催し、800人もの方々が参加され、学生生活の思い出を学友や先生方と語り合った。ま

た、各学習センターで春期あるいは秋期に行われる学位記授与式でも、その後の謝恩会など、各地の同窓会、あるいは学友会には、様々な形で協力を頂いている。



19年度卒業祝賀謝恩会



# 親しまれる放送大学へ

## イメージキャラクター「まなびー」の誕生

放送大学の親しみやすいシンボルとして、イメージキャラクターを作成した。キャラクターのデザインは、放送大学の卒業生で人気漫画家でもあるこうの史代氏にお願いし、「あなた」の心に学びを届ける伝書鳩という着想のもと、作成された。名称を公募した結果、158名の方から242点の応募があり、選考の結果、名前を「まなびー」に決定した。学生向けの印刷物や告知番組に登場し、親しまれている。



「まなびー」をデザインしたこうの氏(右)



放送大学  
イメージキャラクター  
「まなびー」

## 放送大学イメージソングの作成

放送大学の認知度と学生等への生涯学習意欲の向上を目的として、これまでに数多くの作詩・作曲を手がけておられる小椋 佳氏に、イメージソングの制作をお願いした。

その曲のタイトルは

「人間の贅沢、ひとつ」と

「と・も・た・ち」

である。作詩、作曲に加えて歌も、担当して頂いた。

小椋 佳 氏の学びへの思いがこれらの歌詩に込められている。



小椋氏





# MANABEE'S CAFÉ — bayfmで放送中

放送大学本部とbayfm本社は最寄り駅も同じ、そして放送周波数も隣り同士である(本学東京放送局77.1Mhz、bayfm 78.0Mhz[一部地域を除く])。MANABEE'S CAFÉは、毎週金曜日の11時54分から5分間放送されているbayfmのラジオ番組である。毎月一人の専任教員がゲスト

出演し、各自の専門分野を紹介しながら、学ぶ楽しさについてDJと語り合うという形式をとっている。この番組を通して、放送大学の学生層とは異なる、多様な人々に対して、生涯学習の啓発活動を実施している。

## ■ 出演教員のリスト

1月	長岡 亮介 教授	7月	荻野 博 副学長
2月	松村 祥子 教授	8月	河合 明宣 教授
3月	岡崎 友典 准教授	9月	井上 洋士 准教授
4月	原島 良成 准教授	10月	森 津太子 准教授
5月	秋光 淳生 准教授	11月	天川 晃 教授
6月	本多 俊和 教授	12月	宮本 徹 准教授



スタジオ収録風景

## 附属図書館のコレクションを全国で公開

放送大学には、「ちりめん本」と呼ばれる欧文和装本がコレクションされている。それは江戸赤本の伝統を汲む、明治時代に生まれた新しい絵本である。和紙を使用し、木版多色刷りで挿絵を入れ、文章を活版で印刷し、縮緬布のような風合を持った絵入り本である。

また、放送大学附属図書館が所蔵する、幕末、明治期の古写真も、貴重なコレクションの一つである。選りすぐりの100点余りをパネルで展示し、100年以上前の近代日本成期の諸相を、写真に残された全国各地の風景・風俗・人物等を中心に「目で見る歴史」として紹介している。これらは、我が国揺籃期の写真師が撮影したものから、「横浜写真」の名で知られる外国人観光客向けの土産物として作られた、絢爛豪華な漆塗り蒔絵アルバムに至るまでの様々な形の作品がある。

▼ 2008年は、以下の5カ所で展示を行った。

- 6月 群馬県生涯学習センター／群馬県前橋市
- 7月 生涯学習プラザ「学びの館ローズコム」／広島県福山市
- 10月 ビッグパレット福島(生涯学習フェスティバル)／福島県郡山市
- 11月 かごしま県民交流センター／鹿児島市
- 12月 徳島県立二十一世紀館／徳島市



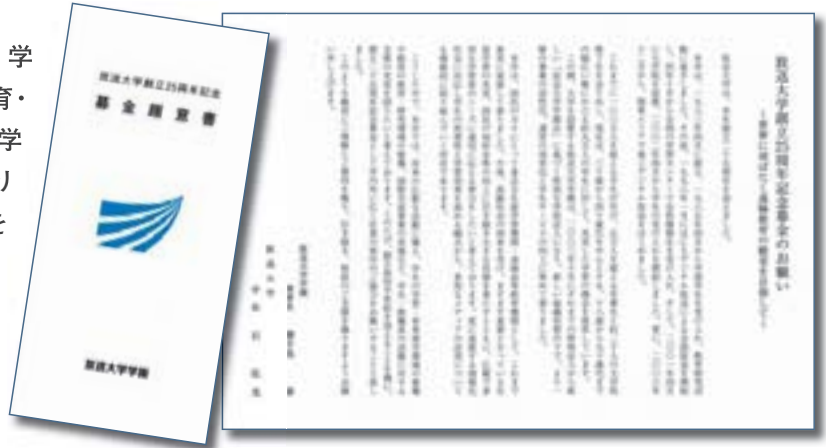
巡回コレクション展(広島県福山市)

# 放送大学の新たな動き

## 創立25周年に向けて募金を開始

放送大学では、将来の広範な活動に備え、学生の学習・育英奨学環境の整備や教員の教育・研究環境の整備、国際交流事業の実施など、学生・教職員の活動に対する支援の充実を図りたいと考えている。このたび、創立後4半世紀を迎えることを機に、創立25周年記念募金として学内外に広く任意の寄付のご協力をお願いすることとした。[募金趣意書より]

趣意書



## Webページの充実

放送大学は、授業のネット配信にとどまらず、様々な形でインターネットの利用を試みており、そのためのホームページ情報の拡充を行っている。4月には在校生向けのキャンパスネットワークホームページを、わかりやすく使いやすくするため、トップページのデザインの変更などの刷新を行った。

また、従来から放送大学のホームページは情報の提供にとどまらず、科目登録などの、一部手続きも行えるようになっていた。今年からはさらに、その充実を図るため、新たな教務システム、システムWAKABAを立ち上げた。成績照会や各種届け出が放送大学ホームページ上でできるようになった。今後さらに充実を図る予定である。

ホームページトップページ



## 塩谷文部科学大臣による視察

11月27日に塩谷立文部科学大臣が放送大学とメディア教育開発センターを視察された。石弘光学長らが放送大学の現状について説明を行った後、スタジオ、演奏所、附属図書館、千葉学習センターを視察された。



塩谷文部科学大臣と石学長

# データで見る放送大学の概要

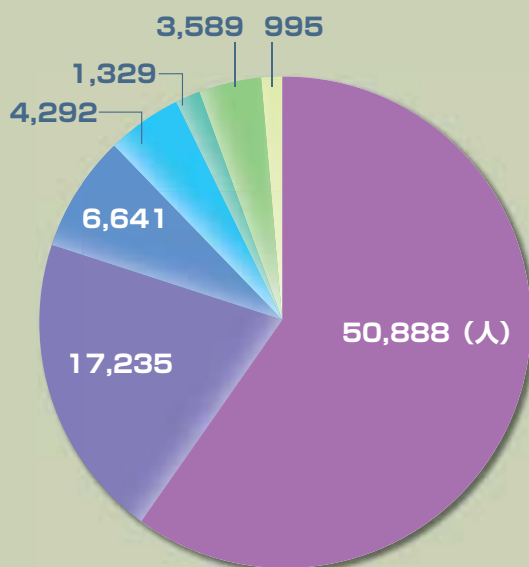
## 教職員数

[単位：人]

役員	5
学長	1
副学長	2
教員	86
事務職員	253
合計	347

2008年度

## ●学生種別 在学学生数



## 在学学生数

[単位：人]

教養学部	
学生の種別等	在学生
全科履修生	50,888
選科履修生	17,235
科目履修生	6,641
特別聴講学生	4,292
合計	79,056

2008年度第2学期

大学院	
学生の種別等	在学生
修士全科生	1,329
修士選科生	3,589
修士科目生※	995
合計	5,913

2008年度第2学期

集中科目履修生	
学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	1,106
看護師資格取得に資する科目	488
合計	1,594

2008年度

※ 特別聴講学生を含む

(注) 特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

## 入学者数

[単位：人]

教養学部			
学生の種別等	1学期	2学期	合計
全科履修生	6,395	3,244	9,639
選科履修生	11,935	5,323	17,258
科目履修生	5,574	6,641	12,215
特別聴講学生	1,908	4,292	6,200
合計	25,812	19,500	45,312

2008年度

大学院			
学生の種別等	1学期	2学期	合計
修士全科生	475	—	475
修士選科生	2,743	823	3,566
修士科目生	969	992	1,961
特別聴講学生	0	3	3
合計	4,187	1,818	6,005

2008年度

## 単位互換協定締結校数 [単位：校]

学生の種別等	校数
大学	235
短大	83
高专	9
合計	327

(2009年3月現在)

## 学部卒業生数

[単位：人]

1学期	2学期	合計	累計
1,929	3,230	5,159	56,174

2008年度

## 大学院修了数

[単位：人]

1学期	2学期	合計	累計
9	414	423	2,412

2008年度



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11  
TEL:043-276-5111(代) FAX:043-276-2781  
<http://www.u-air.ac.jp/>